



6日_東京 23区も雪景色



“世界のオザワ”逝去_享年 88 歳

建国記念日が絡んだ3連休、先週5日(月)の午後から6日(火)の午前中にかけて首都圏でも積雪があり、首都高や電車、飛行機などもズタズタになりました。僕から見ればたいしたことない雪ですが、慣れてない人たちには相変わらず大ごと—おままごと?—のようでした。輸送が分断されたためか、スーパーやコンビニの棚はカラッポ、3.11直後の仙台市の景色を思い出しました。今もまだ、歩道の日陰あたりに残雪が少し見受けられますが、ほぼ消えています。その後は晴天続き、今日から気温がどんどん上がり、日中は20℃くらいになるとか。もう春の陽気が漂ってきています。2月冬本番の東北や北海道でも雪が少なく、除雪作業や雪まつりなど関係者には商売あがったりの人たちもいることと思います。山に積雪が足りないと夏の水不足も懸念されますが、海水温上昇、蒸散により、今夏も空から災害級の水分の供給があるかもしれません。まあ、今は能登半島の被災地が温かいことを願うばかりです。

“世界のオザワ”こと指揮者の小澤征爾さんが88歳で亡くられました。僕はあまりクラシック音楽は詳しくはないのですが、小澤さんが若くして海外で成功を収め、第一線で活躍し続ける“マエストロ—巨匠—”であることは昔から存じ上げています。不思議に思うのは、同じオーケストラのメンバーで同じ譜面を演奏しているのに、指揮者が変わるとオーケストラ全体の力量が変わってしまいます。以前、小澤さんがタクトも持たず、手を縛った状態で、顔と目力だけで指揮をしているのを見ましたが、それでもオザワの世界を創ることができていました。イントロクイズのようなTV番組で、クラシックの同じ曲を流すと、いつ誰の指揮で、どこのオーケストラが演奏したものだと、最初の2~3秒聞くだけで当てる人がいました。やはりそれだけ違いがあるということなんだろうと感心した記憶があります。やはり世界のオザワというだけあって、マエストロという冠にふさわしい人物だったのだろうと思います。晩年はガン治療で苦しんでおられたようですが、心よりご冥福を祈ります。

僕が大嫌いな人物の代表格にジャーナリストの櫻井よしこさんがいます—失礼！—。彼女が何かで“あなたは祖国のために戦えますか”と言ったひと言が炎上しているとの話題で持ち切りです。百田尚樹氏と並んで極右の考えの持ち主です。この人たち、とてもコワいのですが…。東京新聞“本音のコラム”大矢英代—[おおやはなよ](#)—さんの論評です。

「国のために戦えますか」 2月5日付

大矢 英代 — カリフォルニア州立大助教授 —

「米国人は、自由を回復し、独裁政治を終わらせ、解放するためにやってきたのだ。征服するためではない」ワシントン DC の第 2 次世界大戦記念碑には、そんな刻印がある。見渡す限り壮大な花崗岩で築かれた記念碑には、戦場の残虐性は見えない。「戦争を終わらせるためには、正義という名の暴力が必要だ」。そんな米国型の戦争価値観が具体化された空間の中で、言葉にならない恐怖を感じた。

「あなたは祖国のために戦えますか」。ジャーナリストの櫻井よしこ氏の SNS 発信が、今、ネットで物議を醸しだしているという。「多くの若者が NO と答えるのが日本です。安全保障を覚えてこなかったからです」と櫻井氏は投稿した。平和のために武器を捨てて対話せよと唱える日本国憲法。「同盟国」という名で結ばれた二つの国は、「平和」への考え方が根本から異なる。しかし、櫻井氏の発言にみるように、ここ数年で、日本はアメリカ型の価値観に着実に近づいてきている。いや、「お国のために死ね」と言ったかつての帝国主義的価値観に逆戻りしているというべきだろう。

「国のために戦え」と言われたら、戦わせようとする為政者と闘うべきだ。それでも戦えと迫られたら、逃げよ、隠れよ。自分の命を一番大事に。

僕たちが学生時代によく唄ってた加川良の“教訓 I”という歌詞“命はひとつ人生は1回 だから命は捨てないようにね あわてるをついフラフラと 御国のためなのと言われるとね 青くなってしりごみなさい にげなさい かくれなさい♪”を彷彿とさせる書きっぷりです。この歌を知ってて引用したのかな？大矢さんまだ 30 代、とは言ってもドキュメンタリー映画の監督で賞をもらったりもしているから知的センスはきっといいのでしょう。ところで櫻井さんご自身は、祖国のために戦えるのかな？—77 歳だからまずムリ！—子どもさんはいないようなので、自分のことはさておいてか…、旧統一教会とベツタリなので、いろいろな言動もそちら寄り、亡き安倍さんのファンクラブ会長みたいだし、困ったもんです—イヤイヤ、僕は困ってません！—。

国会では、来年予算案の審議などおっぼいて、裏金問題と盛山という文科大臣の旧統一教会とのグチャグチャな関係を野党から追及され、右往左往しています。盛山氏いわく“記憶にございません”⇒“うすうす思い出してきた”⇒“覚えていない”⇒“したかもしれない”…なんじゃこりゃ？灘高から東大へストレートで入った IQ の持ち主がボ

ケちゃった？—そういえばバイデン大統領も機密文書持ち出しについて、本人の記憶が曖昧で罪に問えないとの判決を受けたとか—、こんな人が大臣やってること自体“更迭—クビー”に値すると思うんですけどネ！東京新聞“本音のコラム”三木義一さんの論評です。

国会疑似録 2月8日付

三木 義一 — 青学大名譽教授 —

野党議員「昨年からの調査結果を教えてください」

国税庁長官「現議員の方 181 名、前議員の方が 22 名、合計 203 名の方に修正申告や更生処分をいたしました」

「金額はいくら？」

「増差所得のトータルは 2 億 1800 万円にのぼっております」

「いわゆる政治資金、これが雑所得として申告されておるのか」

「おそらく政治活動に伴う収入支出は、差し引きゼロという事例が多いせいだと思いますが、所得ありとしての申告は非常に少ない」

「調査はいつ頃から」

「昨年からです」

大蔵大臣「議員に対する名譽を尊重し、今までしなかったのです」

「それは大変な間違いだ。今年申告していない議員は何人いる？」

「衆参両院で 159 名の方が無申告です」

「派閥から高額支給されているのに、それでいいのか？」

昭和 42 年 5 月 23 日の大蔵委員会の一部の要約である。この時期から与党の議員も申告せざるを得なくなったが、早速政治団体を多数造り、政治資金はそちらに移し、個人の所得では政治活動支出を雑所得の経費に入れ、赤字とした上で、歳費と相殺し、還付を受ける。大量の還付申告に国税庁が参り、翌年から雑所得の損益通算を禁止。副業の赤字で還付されていた庶民の増税となった。

与党の自浄能力？ないね。

検察や東京地検が腰抜けなら、国税庁が脱税容疑で裏金議員をしょつ引いてほしいところですが、なんかそれもナアナアで終わってしまいそうな雲行きです。コイツらを何とか始末してしまう方策はないでしょうかね。先日前橋市と京都市で市長選がありましたが、京都はなんと自公に立憲民主党が相乗りした候補が勝つという、なんだこれ？の結果でした。よくよく聞くと、泉健太代表と福山哲郎氏は京都が地盤だということで、知り合いの保守系候補に相乗りしたらいいのですが、対立候補が共産党が支援だったので、自公にスリスリしたようです。これじゃ国民の信頼回復なんて夢のまた夢。東京新聞“本音のコラム”斎藤美奈子さんの論評です。

4日の前橋市長戦で、4期目をめざす自公推薦の現職を破り、野党系の元県議・小川晶候補が当選した。保守王国でのまさかの快挙だった。

一方、同日の京都市長選では新人2人のデッドヒートの末、与野党が推薦する松井孝治候補が、市民グループの推薦と共産党の支援を受けた福山和人候補を制した。

二つの選挙は似ているようで少し違う。前橋市の場合は与野党の対決に野党系が勝った形だ。

京都市の構図はやや複雑だ。本命の松井候補は元民主党の参院議員で、立民、自民、公明が推していた。与野党相乗りになったのは維新対策だったかもしれない。ところが告示直前に、維新推薦候補の「架空の政治資金パーティー開催」疑惑が発覚、維新は推薦を取り消し、国民民主は松井候補に乗り換えた。

こうして浮上したのが穴馬の福山候補だ。松井氏との対決を「非共産対共産」と書いた新聞もあったが、福山氏は共産というより市民派の弁護士だ。これは「既成政党対市民派」の戦いで、弱小の市民派が与野党軍団を追い詰めたのだ。

となると疑問なのは立民の立場である。前橋では自公と対決し、京都では自公と手を結ぶ。裏の事情があったにしてもダサい。前橋で小川氏が勝ったのも市民の力が大きい。泉代表は次期衆院選で政権交代をと宣言したが、今のままでは無理だろう。

こんなことしてるから、我々国民はなにを信じてどう選挙行動に出ればよいのか判断にまよってしまいます。裏金があっても、脱税があっても、自民党は鼻で嗤ってられるのです。こんな“ゆ党”に誰がした…。

“**JT インターナショナル**”…日本たばこの子会社—日本政府が3割の株式を所有一—but、ウクライナ紛争によりロシアに経済制裁をかけている中、ロシア国内4工場生産や販売を継続しており、約4千人を雇用しているとのこと、約4千億円—ウクライナを空爆しているロシア戦闘機100機分—が直接ロシアの国家予算に入っており、ウクライナからは“戦争支援企業”に指定され、“最大の投資家で主要な納税者”だとして非難されています。22年のロシアのタバコ市場の36.6%を占めシェアトップだそうです。撤退したいところではあるもののロシア事業がJTグループ全体の営業利益の2割を占める“ドル箱”であることから、二の足を踏んでいるようです。トヨタや日産、マツダ自動車などはすでに撤退していますが、撤退するにはロシア当局の規制—妨害—が厳しくなっており、抜けるに抜けられない事情もあるようです。ただし、ロシアに進出している日本企業178社のうち、撤退したのは9社、撤退表明した14社合わせても全体の1割強、ロシアに対する欧米の経済制裁はあまり効果が出ていないようです。

ウクライナ、カザ、ミャンマー、中国新疆ウイグル etc.…至るところでヒトとヒトが殺し合っています。1日に何人死んでいるのでしょうか。それでも人口爆発年1億人です！